

Sound Emotion

きれいな石

青年

少女

少女「ねえ見て、きれいな石。」

青年「え、どれどれ。」

少女「ほら、これ。」

青年「わあ・・・ほんとうにきれいだ。これ、どこで見つけたの？」
少女「えっとね、そのの茂みをぬけたところ。」

ほかにもへんなものがいっぱい落ちてたよ。」

青年「へんなもの？」

少女「うん！　一緒にきてみる？」

青年「ああ、うん。」

青年「・・・！！！」

少女「どうしたの？」

青年「まって、それ以上近づいたらだめだ！」

少女「え、どうして？」

青年「いくんじじゃない！！！」

少女「やっ、はなして、いたいよ・・・。」

青年「ごめん、つよくやりすぎた・・・いいかい、よく聞いて。

あれは・・・もとは人だったものなんだ。」

少女「えっ、ひと？ でもぜんぜんそんな感じしないよ。」

青年「うん、もう変わり果てた姿になってる。」

じつは前に、同じものを見たことがあるんだ。

・・・すぐそばに、見覚えのあるイヤリングがあった。

ぼくがその人にあげたものと一緒だったんだよ。」

少女「じゃあそのひとが・・・」

青年「きつとなにかの見間違いだ、って

何度も何度も思ったけど・・・だめなんだ。

その日を境に彼女はいなくなつたままだし、そのかたまりを

彼女だつて思うのが、いちばんしつくりきたんだ。

もう、それ以上考えるのがいやになつたんだよ・・・」

少女「・・・ごめんなさい。」

わたしのせいで、いやなこと思い出させちゃつて。」

青年「いいんだ。ぼくのなかではもう気持ちの整理はついている。

きみはなにも悪くないよ。さあ、もう帰ろう。

その石は、ここに置いていくんだ。」

少女「うう、せっかく拾つたのに。でもしょうがないよね。

・・・ばいばい。」

青年「（それでいい。ぼくたちは、なにも見なかつたんだ）」